

2024年度 EA21 環境経営レポート

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日



EA21推進事務局
発行日 2025/5/29
追記 6/25



埼玉スバル株式会社

<u>【会社概要】</u>	1
<u>【認証登録範囲】</u>	2
<u>【推進体制】</u>	3-1. 3-2
<u>【環境経営方針】</u>	4
<u>【環境経営目標】</u>	5-1. 5-2
<u>【環境経営計画】</u>	6
<u>【取り組み結果、環境負荷の状況】</u>	7
<u>【環境経営目標達成状況と評価】</u>	8-1. 8-2
<u>【環境関連法規への違反、訴訟等の有無】</u>	9
<u>【代表者による全体評価と見直し・指示】</u>	9



スバル360

1954年（昭和29年）の法律改正を受け、1955年（昭和30年）春に構想発案が開始された軽自動車。軽自動車でも、十分な性能、十分な耐久性、十分な機能性があり、価格をおさえることができれば、庶民ユーザーむけの軽自動車は魅力的な生活商品になると考え開発が進められた。

日本での乗用車普及の原点として、「てんとう虫」の愛称で1958年の販売から12年間で約39万2,016台が販売され、その性能の高さで数々のレースで高成績を上げた。自動車産業における貢献度が評価され、2004年に「日本自動車殿堂 歴史車」に選ばれている。

会社概要



(1) 事業所名

埼玉スバル株式会社

(2) 所在地

埼玉県さいたま市中央区上落合8-4-11

(3) 代表者名

代表取締役社長 吉澤 裕



(4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 営業本部長 石田 修司
事務局長 総務部部长 秋山 浩
担当者 総務部課長 北原 弘靖
連絡先 TEL 048-852-0137 FAX 048-711-9901
URL <https://www.saitama-subaru.co.jp/>

(5) 主たる事業の内容

スバル車の販売並びに付随する関連業務

1. 新車販売
2. 中古車販売
3. 車検整備・点検整備・一般修理・钣金塗装
4. 自動車部品・用品・関連商品販売
5. 自動車リース
6. 損害保険代理店業務

(6) 事業の規模（2024年度）

年間売上高 約 233億6700万円／年
年間販売台数 7,814台（新車…4,468台、中古車…3,346台）
従業員数 376名（2025年3月31日現在）

	セールス	サービス	パーツ	その他	計
	119	152	9	96	376
店舗数	本社	1	新車スバル店舗	19	
	中古車店舗	6	整備钣金店舗	3	

認証登録範囲



2024.12.6

店舗	住所	工場 資格	組織 区分
1 本社	さいたま市中央区上落合8-4-11	-	A
2 与野店	さいたま市中央区上落合9-12-4	認証	C
3 川越店	川越市山田363	指定	C
4 越谷店	越谷市瓦曽根2-8-71	指定	C
5 川口店	川口市芝4434	指定	C
6 所沢店	所沢市上新井4-25-1	指定	C
7 大宮店	さいたま市北区吉野町2-230-1	指定	C
8 新座店	新座市大和田4-1-5	指定	C
9 本庄店	本庄市東台5-3-26	指定	C
10 春日部店	春日部市小淵588	指定	C
11 北本店	北本市深井6-82	指定	C
12 浦和店	さいたま市南区曲本1-17-19	指定	C
13 東松山店	東松山市六軒町22-8	指定	C
14 鶴ヶ島店	鶴ヶ島市脚折町4-10-5	指定	C
15 熊谷店	熊谷市久下4-111	指定	C
16 狭山店	狭山市上奥富205-2	指定	C
17 久喜店	久喜市久喜本775-1	指定	C
18 富士見	入間郡三芳町竹間沢34-1	認証	E
19 熊谷SS	熊谷市広瀬118-1	指定	C
20 川口栄町店	川口市栄町1-19-10	指定	C
21 CS大宮	さいたま市北区吉野町2-223	-	B
22 CS羽生	羽生市須影360	認証	C
23 CS熊谷	熊谷市久下4-108	-	B
24 CS北本	北本市宮内5-26	認証	C
25 三郷店	三郷市南蓮沼243-1	指定	C
26 CS岩槻	さいたま市岩槻区城南2-1-10	-	B
27 CS秩父	秩父市大野原1090	指定	C
28 さきたまガーデン	行田市佐間1626	指定	D
29 大宮BP	さいたま市北区吉野町2-230-9	認証	E

* 工場の資格

- ・指定は指定整備工場
- ・認証は認証工場

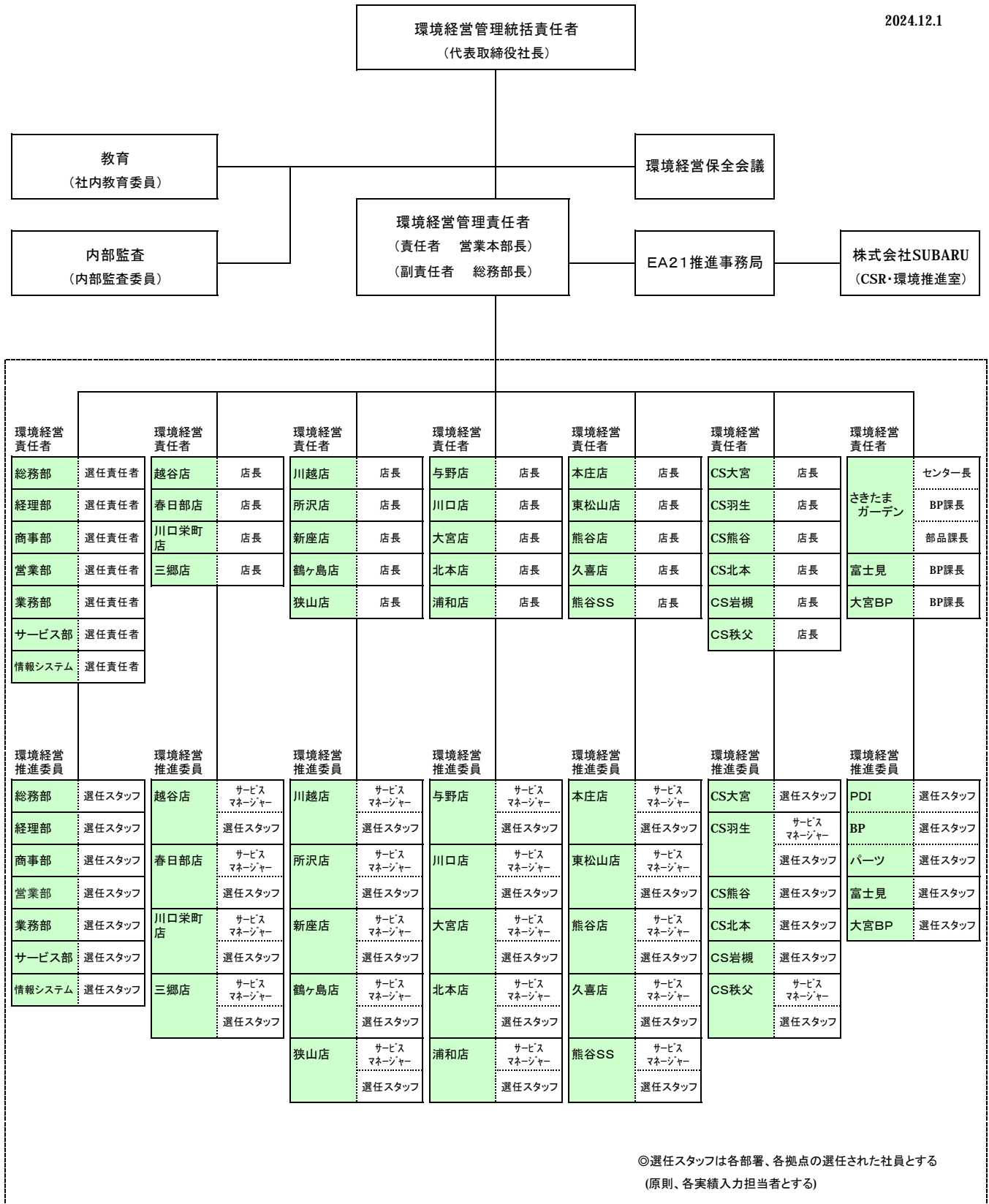
* 組織区分

- A=オフィス業務
- B=オフィス業務+販売
- C=オフィス業務+販売+整備
- D=オフィス業務+整備+钣金塗装
- E=オフィス業務+钣金塗装

推進体制



2024.12.1



役割・責任及び権限



担当者	役割・責任及び権限
環境経営管理統括責任者 (代表取締役社長)	環境経営マネジメントシステム(EMS)執行の最高責任者 環境経営方針を定め、必要に応じ見直す 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする 効果的で必要十分な実施体制を構築し・役割・責任及び権限を定める EMSの見直し(マネジメントレビュー)を行う ・要員(人材)・設備・資金等の資源を経営上対応可能な範囲で用意する 環境経営管理責任者を任命する
環境管経営管理責任者 (営業本部長)	本業の業務とは関わりなく、EMSを・確立・実施・維持する責任と権限を有する ・環境経営方針・環境経営目標に沿って全社の・環境経営活動実施計画書を作成する 「環境法規制等とりまとめ一覧表」を作成し、最新状態を維持する ・環境経営マニュアル・手順書・帳票等の文書を維持管理する 緊急事態の訓練を計画し実施する(店舗の実施を推進する) 環境に関する行政機関対応の責任者(法規制対応も含む) マネジメントレビューの報告情報を取りまとめ報告する 環境経営に係わる教育訓練を推進する 外部からの苦情対応の責任者 内部監査委員の任命
環境経営管理副責任者 (総務部長)	環境経営管理責任者の業務を補佐する
EA21推進事務局	環境経営管理責任者を補佐し・EMSの確立・実施・維持全般に関する事務局業務を行う ・環境経営マニュアル・手順書・帳票等の見直し、最新版の管理 各部門、各店舗との調整をし情報伝達する 全社EMSの進捗管理、審査対応窓口(外部との調整を含む) マネジメントレビューの情報収集と整理 (株)SUBARUの環境推進部門との窓口
環境経営保全会議	環境経営マネジメントシステム(EMS)運営にあたり、環境経営管理責任者・環境経営管理副責任者・EA21推進事務局が協議し、必要に応じ統括責任者に意見具申する
内部監査委員	全組織、全業務を対象とした監査を行う ・EA21のガイドライン・自社のルールに適合しているか監査する 環境経営への取組み及び、システムが組織的に改善されているか監査する 監査及び評価を行い・代表者・環境経営責任者に報告する
環境経営責任者 (部門長 店長)	各環境経営責任者は、店舗の環境経営活動の実質的な実施責任者 各環境経営責任者は、店舗特有の問題解決・環境経営活動計画野策定・店舗の数値化された目標達成に取り組む 各環境経営責任者は、店舗内従業員の教育・取り組みの確認・是正などを行なう 部門長はEA21推進事務局と各店長の調整を行なう
環境経営推進委員	環境経営責任者を補佐し、自部署、自店舗の環境活動を指導し推進する
一般従業員	環境経営活動の重要性を自覚し、必要な環境教育訓練を受け・環境経営方針・環境経営目標・環境経営活動実施計画書に基づいて、日常の環境経営活動に取り組む

<<基本理念>>

埼玉スバルが未来に亘り事業活動を継続していく上で、地域市民として郷土に貢献し、すばらしい地域環境と地球環境の構築のため、地域に密着した環境保全活動を行い、美しい「彩の国」埼玉を実現させることを基本理念とします。

<<基本方針>>

埼玉スバルが行う、自動車および部品の販売、加工、修理、再生業務等に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー、リサイクル、公害防止に配慮し、地域社会に、安心して住みよい環境が与えられるような活動を行います。
2. CO2の削減に努め、次世代の未来が、美しい環境であるよう、努めます。
3. 環境汚染を未然に防止し、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
4. 適用する環境関連の法規則、条例、および当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
5. 特に次の環境保全の重要項目に対して、環境経営目標を設定し、積極的に取り組みます。
 - ①省エネルギーの推進(電力使用量の削減、ガソリン使用量の削減)
 - ②廃棄物の削減(一般廃棄物・産業廃棄物の排出量の削減)
 - ③水使用量の削減
 - ④化学物質の削減、適切な管理
 - ⑤環境配慮車(アイサイト車)の販売促進に努めます。
6. 業務の効率化に積極的に取り組み、省エネ・少資源化に繋がります。
7. 法定点検の促進・整備入庫車の促進とクレーム発生率削減に努めます。
8. 地域に密着した環境保全活動に積極的に参加し、貢献に努めます。
9. この環境経営方針を全従業員が共有し、啓蒙活動を推進し、内部コミュニティーの活性化を図り、環境保全活動に対する意識の高揚を図ります。

2021 年2月5日改訂
埼玉スバル株式会社
取締役社長 吉澤 裕

環境経営目標



当社はエコアクション21に取り組むにあたり、特に環境への負荷が大きいと思われる・電力・ガソリン・水の使用量・CO₂・廃棄物の排出量・化学物質の使用量を把握し、目標をもって削減に取り組みます。

1. 基準年の実績

環境負荷実績

2023年度を基準年度として取り組みます。

当社における基準年度の、環境負荷実績は以下の通り。

項目		単位	2023年度 総量	2023年度 台当たり
エネルギー使用量	電力	kWh	2,126,141	10.388
	ガソリン	L	284,791	38.485
	都市ガス	m ³	4,997	10.542
	LPG	kg	12,147	9.633
CO ₂ 排出量		kg-CO ₂	1,803,525	8.504
一般廃棄物排出量		kg	125,949	0.594
産業廃棄物排出量		kg	270,903	1.324
水使用量		m ³	14,897	0.070
化学物質使用量		kg	548	0.299

- ・電力CO₂排出係数2023年度は出光グリーンパワー排出係数0.495kg-CO₂/kWhで算出
2024年度以降は出光興産プレミアムゼロプラン排出係数0.000kg-CO₂/kWhで算出
- ・電力・産業廃棄物は整備台数の1台あたりの実績
- ・ガソリンは販売台数(新車+中古車)の1台あたりの実績
- ・都市ガス、LPGは自社钣金塗装実施台数の1台あたりの実績
- ・CO₂排出量・一般廃棄物排出量・水使用量は(販売台数+整備台数)の1台あたりの実績
- ・化学物質はPRTR対象物質使用量とし自社钣金塗装実施台数の1台あたりの実績

環境配慮車(新型車)販売促進の取り組み

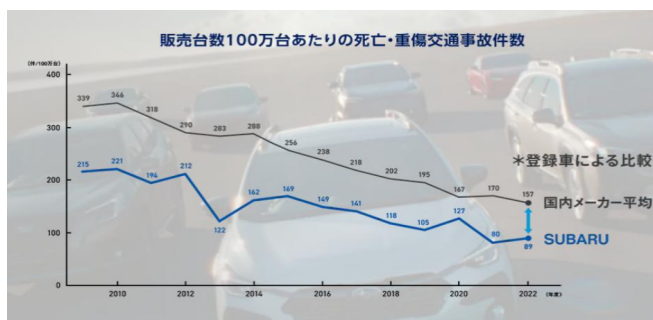
2023年度を基準年度として取り組みます。

当社における基準年度実績と、2023年度の環境配慮車(新型車両)登録目標は以下の通り。

エコアクション21では、基準年+1%(年度毎)で目標設定します。

項目	単位	2023年度目標	2023年度実績
新車登録台数	台	4,543	4,198

『 SUBARUの総合安全 』



2030年、SUBARUは 死亡交通事故ゼロ*へ

* SUBARU車乗車中の死亡事故およびSUBARU車との衝突による歩行者・自転車等の死亡事故ゼロを目指す。

2. 環境経営目標

環境負荷削減目標

2023年度を基準年として取り組みます。

エコアクション21では環境負荷実績を台当たり(原単位)で目標設定します。

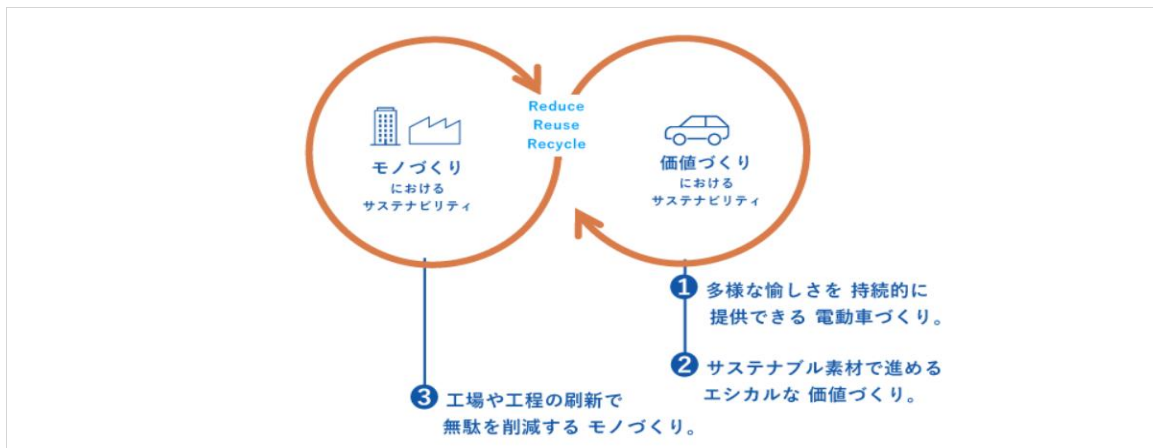
項目		単位	2023年度(基準年)	2024年度	2025年度	2026年度
			台当たり	台当たり	台当たり	台当たり
エネルギー 使用量	電力	kWh	10.388	-1% 10.284	-2% 10.180	-3% 10.076
	ガソリン	L	38.485	-1% 38.100	-2% 37.716	-3% 37.331
CO ₂ 排出量		kg-CO ₂	8.504	-1% 8.419	-2% 8.334	-3% 8.249
一般廃棄物総排出量		kg	0.594	-1% 0.588	-2% 0.582	-3% 0.576
産業廃棄物総排出量		kg	1.324	-1% 1.310	-2% 1.297	-3% 1.284
水使用量		m ³	0.070	-1% 0.070	-2% 0.069	-3% 0.068
化学物質使用量		kg	0.299	-1% 0.296	-2% 0.293	-3% 0.290

- ・電力CO₂排出係数2023年度は出光グリーンパワー排出係数0.495kg-CO₂/kWhで算出
2024年度以降は出光興産プレミアムゼロプラン排出係数0.000kg-CO₂/kWhで算出
- ・電力・産業廃棄物は整備台数の1台あたりの実績
- ・ガソリンは販売台数(新車+中古車)の1台あたりの実績
- ・CO₂排出量・一般廃棄物排出量・水使用量は(販売台数+整備台数)の1台あたりの実績
- ・化学物質はPRTR対象物質使用量とし自社鍍金塗装実施台数の1台あたりの実績

『SUBARUの環境に配慮したクルマづくり』

SUBARUは「環境」のなかで重視すべき環境課題として、「気候変動の抑制」、「Circular Economy(循環経済)の実現」、「自然との共生」の3つを掲げ、これらの環境課題に取り組むことで、最終的に自然界への環境負荷を実質ゼロとし、さらにポジティブなインパクトを与えていくことを目指します。

SUBARUは、これまで実現してきた「安心と楽しさ」の価値に加え、サステナブル素材の活用による新たな魅力づくりを検討するとともに、無駄を削減するモノづくり改革を進め、持続可能な「モノづくり革新」と「価値づくり」に取り組めます。



2024年 環境経営計画



項目			中期計画 (2024年度～2026年度)	2024年度活動計画
環境 負 荷 項 目	エネルギー 使用量	電力	①台当たり量の対前年比1%削減 を目指す ②随時、省エネ機器への代替を促 進 ③業務効率アップによる削減を目 指す	電気事業社の見直し 始業／終業時間の明確化 本社での始業／終業時間管理 早期受注・早期作業予約獲得 代車の燃料管理 社用車の定期点検整備実施 業務効率を上げるための設備管理 WEB会議・WEB研修研修の推進
		ガソリン		
	CO ₂ 排出量			
	総排水量		台当たり量の対前年比1%削減を 目指す	洗車機エコモード設定 下部洗浄機の活用 洗車有無の確認
	一般廃棄物排出量		台当たり量の対前年比1%削減を 目指す	電子文書の積極的使用 会議資料のペーパーレス化促進 分別の徹底
	産業廃棄物排出量		台当たり量の対前年比1%削減を 目指す	電子マニフェストに移行 リビルト部品の活用 分別の徹底
	化学物質使用量		①PRTR、VOCの管理の徹底 ②水性塗料の利用促進 ③台当たり量の対前年比1%削減 を目指す	水性塗料の利用促進 廃シンナーの再生機活用 リスクアセスメントの取り組み強化
環境に配慮した車両販売促進			環境対応車(新型車)の導入促進	環境対応車への代替促進 試乗会／体験イベントの開催
<div>推進項目</div> <div></div> <div></div>			法定点検・車検の入庫推進	マイルスバル(SNS)の活用促進 点検パック加入促進 早期作業予約の促進
			入庫管理・行程管理の精度をあげ 効率的運営による作業時間短縮	壁面表・スマートボードの活用 時間単位の入庫予約推進 早期作業予約の促進

取り組み結果、環境負荷状況



環境への負荷の状況(取りまとめ表)

(総使用量・総排出量)

項目		年度 単位	2022 総量	2023 総量	2024 総量
エネルギー 使用量	電力	kWh	2,016,990	2,126,141	2,189,607
	ガソリン	L	286,412	284,791	283,533
	軽油	L	9,169	17,190	7,923
	灯油	L	226	273	76
	都市ガス	m ³	6,438	4,997	4,550
	LPG	kg	16,395	12,147	11,933
CO ₂ 排出量		kg-CO ₂	1,746,452	1,803,525	724,056
一般廃棄物総排出量		kg	137,622	125,949	112,937
産業廃棄物総排出量		kg	273,024	270,903	262,845
水使用量		m ³	15,183	14,897	15,367
化学物質使用量		kg	839	548	472

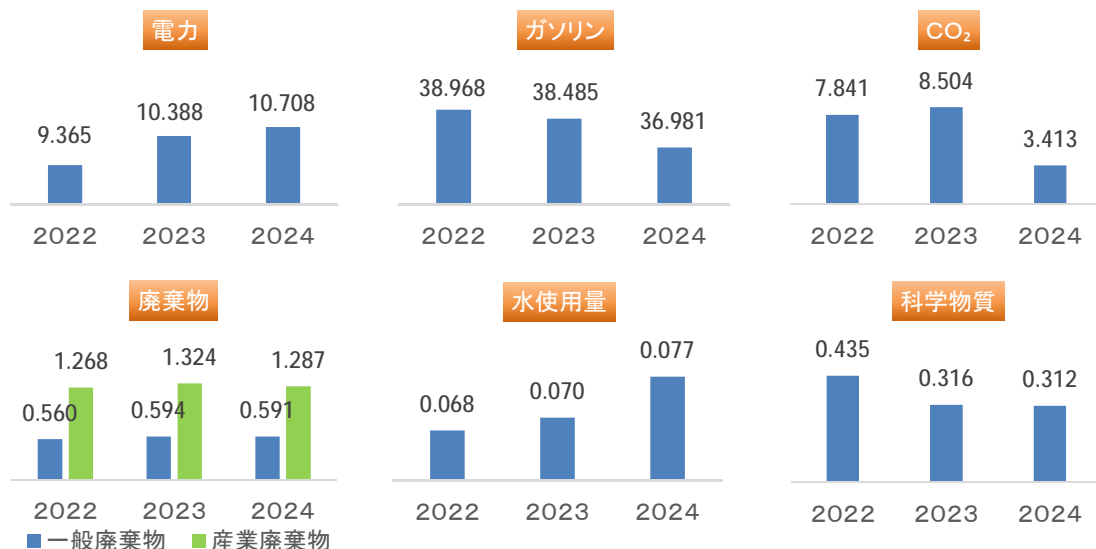
2024年度以降は出光興産プレミアムゼロプラン排出係数0.000kg-CO₂/kWhで算出

(台当たり使用量・台当たり排出量)

項目		年度 単位	2022 台当たり量	2023 台当たり量	2024 台当たり量
エネルギー 使用量	電力	kWh	9.365	10.388	10.708
	ガソリン	L	38.968	38.485	36.981
	都市ガス	m ³	12.240	10.542	10.938
	LPG	kg	11.694	9.633	10.908
CO ₂ 排出量		kg-CO ₂	7.841	8.504	3.413
一般廃棄物排出量		kg	0.560	0.594	0.591
産業廃棄物排出量		kg	1.268	1.324	1.287
水使用量		m ³	0.068	0.070	0.077
化学物質使用量		kg	0.435	0.316	0.312

2024年度以降は出光興産プレミアムゼロプラン排出係数0.000kg-CO₂/kWhで算出

(台当たり使用量・台当たり排出量グラフ)



環境経営目標達成状況と評価



環境への負荷実績と評価

項目		単位	2024年度目標	2024年度実績	削減率	評価
			台当たり(原単位目標)	台当たり(原単位実績)		
エネルギー 使用量	電力	kWh	10.284	10.708	-4.1%	△
	ガソリン	L	38.100	36.981	2.9%	○
CO ₂ 排出量		kg-CO ₂	8.419	3.413	59.5%	○
一般廃棄物総排出量		kg	0.588	0.591	-0.5%	○
産業廃棄物総排出量		kg	1.310	1.287	1.8%	○
水使用量		m ³	0.070	0.077	-10.6%	×
化学物質使用量		kg	0.296	0.312	-5.7%	△

- ・電力CO₂排出係数2023年度は出光グリーンパワー排出係数0.495kg-CO₂/kWhで算出
2024年度以降は出光興産プレミアムゼロプラン排出係数0.000kg-CO₂/kWhで算出
- ・電力・産業廃棄物は整備台数の1台あたりの実績
- ・ガソリンは販売台数(新車+中古車)の1台あたりの実績
- ・CO₂排出量・一般廃棄物排出量・水使用量は(販売台数+整備台数)の1台あたりの実績
- ・化学物質はPRTR対象物質使用量とし自社钣金塗装実施台数の1台あたりの実績

環境配慮車(新型車)販売促進の実績と評価

項目	単位	2024年度目標	2024年度実績	増加率	評価
新車登録台数	台	4,240	4,615	8.1%	○

環境経営目標を達成するための取り組みと評価、次年度の取り組み

① 電力使用量削減

今年度、電気事業社の契約を見直しました。それによりCO₂排出量を大きく削減する事ができましたが、店舗も増えている事もあり電気使用量の削減はできませんでした。引き続き使用量に気を配りながら取り組んでいきます。

② ガソリン使用量の削減

大きく削減は出来ませんでした。昨年に比べ総使用量・台当たり使用量共に削減をする事ができました。
引き続きWEB会議・WEB研修を実施し業務効率を上げて削減に取り組んでいきます。

③ CO₂排出量の削減

電気事業社の契約見直しと、ガソリン・軽油使用量の削減でCO₂排出量を大きく削減する事ができました。引き続き他の項目でも削減が出来るよう取り組んでいきます。

④ 一般廃棄物の削減

目標値を達成する事は出来ませんでした。昨年に比べ総排出量・台当たり排出量は削減する事ができました。次年度も分別をしっかりとしながら、排出量を抑えて進めていきます。

⑤ 産業廃棄物の削減

総排出量・台当たり排出量共に削減する事ができました。
今年度より導入した電子マニフェストを活用し、引き続き適正処理・環境保全に努めていきます。

⑥ 水使用量の削減

長期連休中に店舗敷地内の水道管より漏水が有り、全社合計の使用量が大きく増加となりました。
その他の店舗では、前年に対し削減することができました。引き続き無駄を無くし、削減に取り組んでいきます。

⑦ 化学物質使用量の削減

年度途中で钣金工場1店舗を休業とした影響も有り、目標値を達成する事はできませんでしたが、
昨年度に比べ総使用量、台当たり使用量共に削減する事ができました。
引き続きリスクアセスメントを進めながら、削減に取り組んでいきます。

⑧ 環境配慮車(新型車)の販売促進への取り組み

イベントに参加された方々に喜んでいただく事ができました。
引き続き、多くの方にSUBARU車の良さを知っていただくため、イベントなどを通し拡販につなげていけるよう取り組んでいきます。

その他の取り組みと評価、次年度の取り組み

① 業務の効率化への取り組み

下期に入り整備台数が若干落ち込みましたが、新車・中古車の販売数では前年を超えることができました。
引き続き、本社、店舗スタッフで協力し、職場環境の改善を進めて行き業務効率を上げる取り組みを進めていきます。

② 法定点検の促進・整備入庫車の促進とクレーム発生率削減への取り組み

車検・定期点検では台数の減少は見られましたが、整備台数全般では大きな増減はありませんでした。引き続きコンプライアンスに取り組みながら作業の効率化に努めていきます。

③ 地域に密着した環境保全活動への取り組み

イベントの開催、外部のイベントへの参加を含めて、より多くの方にSUBARUを知っていただくための活動をできるように進めて行きます。

外部環境コミュニケーションの実施



地域のクリーン活動に参加



外部イベント参加会場に車両展示



環境関連法規への違反、訴訟等の有無



(1) 適用となる主な環境関連法規

遵守確認日 2025 年4月3日

主な適用法規	要 求 事 項	遵守確認
浄化槽法	設置の届出・保守点検・水質検査	○
水質汚濁防止法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)	○
下水道法	排水施設の設置義務、届出	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正保管及び適正処理、業者との契約	○
騒音規制法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)	○
振動規制法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)	○
化管法(PRTR法)	特定化学物質の排出量・移動量の把握と記録、報告	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の適正処理	○
消防法	少量危険物取扱いの届出・表示・適正管理	○
省エネ法	エネルギー使用量の把握	○
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則・特定化学物質障害予防規則の遵守	○
NOx、PM法	排出量の報告	○
小型家電リサイクル法	小型家電の適正処理	○
家電リサイクル法	特定廃棄家電の適正処理	○
建設リサイクル法	該当工事実施時の市町村への事前届出	○
土壤汚染対策法	土壤に有害物質を漏らさない流さない、県知事への報告届出	○
フロン排出抑制法	空調機の・簡易・定期点検の実施、ガス漏れ時の使用中止	○
プラスチック資源循環法	排出量の抑制・把握	○

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規に対する違反はありません。
関係当局による違反等の指摘も過去3年間ありません。

代表者による全体評価と見直し・指示



「期 間」 2024年4月1日～2025年3月31日

「実施日」 2025年4月24日

「社長総括」

昨年度、一昨年度と新店舗を開業する事ができました。これにより地域活動にも、より貢献する事ができると考えています。

現状で本社、事務局、店舗と協力して取り組みを進められていますので、推進体制は変更なく進めていきます。今後も社員の健康と職場環境改善を重視しながら、昨年同様に「コンプライアンス」に対する取り組みを強化し進めていく事。

エコアクション21の取り組みを通して、会社全体で・環境にやさしい事業計画・事業活動・労働環境造りに取り組んでいく事を期待します。